

「荻窪まちづくり会議」が 「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」を提案しました！

9日、荻窪駅周辺地区のまちづくり協議会である「荻窪まちづくり会議」の矢澤規充（やざわのりみつ）代表、ほか4名が区役所を訪れ、2年半に渡って検討してきたまちづくり構想を、田中良（たなかりょう）区長に提案しました。今後、区は、当該地区の「まちづくり方針」を策定し、まちづくりを推進していきます。

「荻窪まちづくり会議」は、荻窪駅周辺の町会・商店会などの有志による募集に応じた地域住民等により、平成25年6月に発足（現在会員数92名）。区の中心的拠点である荻窪駅周辺を、活力ある安全で暮らしやすいまちとしていくために検討を進め、「荻窪駅周辺地区まちづくり構想」を取りまとめました。

まちづくり構想は、荻窪駅を中心とする半径500mの範囲を基本とした区域を対象とし、その検討内容は、南北の連携や商店街のにぎわい、地域コミュニティの活性化、荻窪駅周辺の歴史文化資源の活用、さらには良好な暮らしには欠かせない交通・防犯・防災など、多岐に渡っています。



震災時に対する課題を抱えた地域の防災性向上。また、大田黒公園のほか、角川源義旧邸や近衛文麿の旧邸である荻外荘など、多数点在している歴史・文化的資源をまちづくりに活用していく必要があること。さらに、地域の活動拠点や活動の実態などの情報を発信し、地域コミュニティの充実を図っていくことなどが提案されています。

なお、総合的なまちづくりの目標として『荻窪の歴史文化を礎に、次世代に向けて育む南北の絆』を掲げ、地域特性を尊重し、活かした駅周辺まちづくりを進めていくとしています。

今後、区は、この「まちづくり構想」の趣旨も参考に、庁内での検討を重ね、さらに地域住民の意見を聞いたうえで、荻窪駅周辺地区の「まちづくり方針」を策定し、まちづくりを推進していきます。